

神奈川県スポーツ賞

●陸上競技●

えぐち みれい
江口 美玲 (17 歳)



滋賀県・平和堂 HATO スタジアム等で行われた、令和 8 年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）陸上競技女子七種競技において、高校歴代 3 位の 5447 点をマークし優勝。史上 6 人目の大会 2 連覇を達成した。

一種目目の 100mハードルでは、高校記録まで 0.08 秒に迫る 13 秒 28 を記録し、最高のスタートを切ると、二種目目の走高跳でも自己ベストを 1 c m 更新する 1 m70 c m を記録。大舞台でもその実力を遺憾なく発揮し、昨年優勝したインターハイでの自己記録を大幅に上回る 3437 点で初日を終了した。

2 日目も、初日の疲れを感じさせない勢いそのままにトップを独走し、最終的に自己ベストを 124 点上回る好記録で、見事にインターハイ 2 連覇を達成した。

大綱中学校（横浜市）出身で、陸上競技の強豪である東海大学付属相模高等学校に進学した。今大会の活躍で、同校初の女子総合優勝にも大きく貢献した。好記録を出した 100mハードル後には、「まだまだ伸びるはず」と自身を分析しており、世代を代表する「クイーン・オブ・アスリート」の今後の活躍が大いに期待される。

〔相模原市〕

神奈川スポーツ賞

●水泳●

ご み とも の ぶ
五味 智信 (23 歳)



第 80 回国民スポーツ大会水泳競技成年男子 100mバタフライにおいて、前回大会に続き 2 年連続の優勝を果たした。さらに、同大会の成年男子 100m 自由形で 3 位、成年男子 4 × 50m フリーリレーで 1 位、成年男子 4 × 100m メドレーリレーで 2 位を獲得し、水泳競技の男女総合得点（天皇杯）で神奈川県 の 2 連覇に大きく貢献した。

100mバタフライの決勝レースでは、前半を 23 秒 89 で折り返し、ターン後の勢いを保ちつつ、自己ベストの 51 秒 11 をマーク。2 位以下に 0.5 秒以上の差をつける。圧巻の泳ぎでライバルを突き放し、優勝を決めた。

横浜市出身の五味選手は、0 歳からベビースイミングを始め、湘南工科大学附属高等学校、明治大学を経て、現在株式会社ミキハウスに所属している。2025 年の第 67 回日本選手権(25m) 水泳競技大会の 100mバタフライにおいて、日本新記録を更新し、国内トップ選手として注目を集めた。さらに、今年の第 68 回日本選手権(25m)水泳競技大会では、50m、100mバタフライでともに優勝し 2 冠を達成。特にこの 100m のレースでは、日本新記録、アジア新記録を樹立し、自己ベストを更新した。この快挙により、3 年ぶりに北京世界選手権の日本代表に復帰を果たす。

今後は世界選手権、そして 2 年後のロサンゼルス五輪に向けて、さらなる飛躍とメダル獲得が期待されている。

[横浜市]

神奈川県スポーツ賞

●フィギュアスケート●

あ お き ゆ な
青木 祐奈 (24 歳)



ISU 四大陸フィギュアスケート選手権 2026 の女子シングルにおいて、金メダルを獲得した。彼女の優勝により、日本女子は同大会において、4 度目の表彰台独占を達成した。

本選手権は、ヨーロッパを除く四大陸の代表選手が競う ISU 主催の国際大会である。青木選手はショートプログラムで自己ベストを更新し 2 位につけた。フリースケーティングでは「ラ・ラ・ランド」の音楽に乗せ、得意のトリプルルッツ-トリプルループのコンビネーションを含む 7 回のトリプルジャンプを完璧に成功させ、合計 217.39 点の自己ベストで初出場ながら金メダルを勝ち取った。

小学生時代にトリプルルッツ-トリプルループを成功させるなど、努力を続けてきた青木選手は、2024 NHK 杯国際フィギュアスケート競技大会で 3 位となり、念願のメダルを獲得し感動を呼んだ。

新シーズンに向けては「魅せる」をテーマに、会場が一体となって楽しんでもらえるプログラムを提供したいと語る。古き良きフィギュアスケート音楽の表現で、スケートの良さを伝えることや、3 階席にいる観客まで伝わるような迫力を心掛けて活動している。

青木選手は、これからの日本フィギュア界を牽引する存在として、さらなる活躍が期待されている。

[横浜市]

神奈川県スポーツ賞

●水泳●

いばら りゅうたろう
茨 隆太郎 (32 歳)



第 19 回日本デフ水泳選手権大会にて、3 種の日本新記録を樹立した。

東京都出身で現在は神奈川県平塚市に在住している。

3 歳のときに先天性の感音難聴と診断され、その年齢から両親の勧めで水泳を始めた。小学 6 年生頃から競技に本格的に取り組み、着実に実力を伸ばしていき、15 歳で迎えた 2009 年の台北デフリンピックに初出場、200 メートル背泳ぎで見事優勝を飾った。以降も東海大学に進学後の 2013 年ソフィア大会（ブルガリア）で 5 個のメダルを獲得。さらに大学院在学中の 2017 年サムスン大会（トルコ）では 6 個のメダルを獲得した。SMBC 日興証券に入社後も競技を続け、2022 年のカシアスドスル大会（ブラジル）で 7 個のメダルを獲得。さらに 2025 年の東京大会でも 7 個のメダルを獲得し、通算 26 個のメダルを獲得。これは日本デフスポーツ界における最多記録を更新している。

デフスポーツ界を牽引する存在として知られ、2022 年には、日本人男性として初めて「デフスポーツマン・オブ・ザ・イヤー」に選出され、競技の枠を超えたリーダーシップも発揮している。競技成績だけでなく、デフスポーツ全体の発展に大きく貢献しており、今後の更なる活躍が期待される。

[平塚市]

神奈川県スポーツ賞

●体操●

徳洲会体操クラブ



全日本体操競技団体選手権大会において、第 76 回から第 79 回において、男子団体総合で 4 連覇を果たした。

全日本体操競技団体選手権大会は、各チーム 6 名の選手が出場し、各種目 3 名が演技をした総得点で順位を競う。個々の高い技術力が求められるとともに、6 種目すべてで安定した演技を積み重ねることが求められる。

第 79 回大会の出場選手では、第 33 回オリンピック競技大会（2024／パリ）で金メダルを獲得した杉野正堯選手や岡慎之助選手をはじめ、日本代表クラスの選手が出場し、その中でも川上翔平選手は跳馬、平行棒、鉄棒の 3 種目で 1 位を記録するなど、各選手が力を発揮し、2 位に約 5 点差をつけて優勝を果たした。

4 連覇という偉業は、世界で活躍する選手の高い技術力と、チームとして安定した力を発揮する結束力の証であり、神奈川県を拠点に国内トップレベルの強豪として、日本の体操界を牽引するクラブである。今後さらなる活躍が期待される。

[鎌倉市]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●スノーボード●

とつか ゆうと
戸塚 優斗 (25 歳)



第 25 回オリンピック冬季競技大会（2026／ミラノ・コルティナ）の男子スノーボード・ハーフパイプにおいて、金メダルを獲得した。

スノーボード・ハーフパイプは、半円筒状のコースを滑走し、左右の壁を使ってジャンプや回転などの技を繰り返し、その技の難度や高さ、完成度などで得点を競い合う競技である。

決勝 2 本目で、冒頭からトリプルコーク 1440 を 2 回連続で成功させるなど、最高難度の技を次々と繰り出し、95.00 点を記録。2 位に 1.50 点差をつけて見事優勝を果たした。

2018 年の平昌大会、2022 年の北京大会に続き、3 大会連続でオリンピックに出場。過去 2 大会ではメダル獲得を逃しており、3 度目の挑戦で悲願の金メダルを手にした。

横浜市出身の戸塚選手は、幼少期から世界の舞台で活躍を続け、今回、日本のスノーボード界を代表する選手として世界の頂点に立った。今後もさらなる活躍が期待される。

[非公表]

神奈川県スポーツ賞・オリンピック賞

●フィギュアスケート●

かぎやま ゆう ま
鍵山 優真 (23 歳)



第 25 回オリンピック冬季競技大会（2026／ミラノ・コルティナ）のフィギュアスケート男子シングルにおいて、銀メダルを獲得した。また、団体でも日本チームの銀メダル獲得に貢献し、2 種目で表彰台に立った。

フィギュアスケートは、ショートプログラムとフリースケーティングの演技を行い、ジャンプやスピン、ステップなどの技術的要素と、演技全体の表現力などで得点を競う競技である。

男子シングルでは、ショートプログラム、フリースケーティング合計 280.06 点を記録し、2 大会連続となる銀メダルを獲得した。団体では、男子シングルのショートプログラムで 1 位になるなど、日本の得点源として活躍し、銀メダル獲得に大きく貢献した。

横浜市出身の鍵山選手は、第 24 回オリンピック冬季競技大会（2022／北京）でも男子シングル、団体の両方で銀メダルを獲得しており、2 大会連続で 2 つの銀メダルを手にする快挙を達成。世界のトップスケーターとして確固たる地位を築いている。今後も日本フィギュアスケート界を牽引する選手として、さらなる飛躍が期待される。

[愛知県]

神奈川県スポーツ賞・デフリンピック賞

●バスケットボール●

かとう しき
加藤 志希 (21 歳)



第 25 回夏季デフリンピック競技大会東京 2025 に出場し、バスケットボール女子日本代表史上初の金メダルを獲得した。

生後まもなく難聴だと分かり、普段は補聴器を付けて生活している。バスケットボールとの出会いは、バスケ経験者の両親らの影響もあり、小学校に入学してから地域のミニバスケットボールチームに入ったことである。現在は関東学院大学女子バスケットボール部にてプレーしている。

デフバスケットボールを本格的に始めたのは 2022 年の高校 2 年時で、デフバスケ女子日本代表のトライアウトを通過し、強化指定選手として国内トップレベルの環境で経験を積んできた。2024 年夏に前十字靱帯損傷の大けがを負ったが、日本代表強化指定選手としての活動を続け、同年開催の DIBF アジア太平洋デフバスケットボール選手権大会で優勝した。その後、手術、リハビリを経て 2025 年夏に復帰し、デフリンピックは妹である加藤志野選手と共に双子で初出場を果たし、チーム最年少ながら主力として活躍した。

[横須賀市]

神奈川県スポーツ賞・デフリンピック賞

●バスケットボール●

かとう し の
加藤 志野 (21 歳)



第 25 回夏季デフリンピック競技大会東京 2025 に出場し、バスケットボール女子日本代表史上初の金メダルを獲得した。

生後まもなく難聴だと分かり、普段は補聴器を付けて生活している。バスケットボールとの出会いは、バスケ経験者の両親らの影響もあり、小学校に入学してから地域のミニバスケットボールチームに入ったことである。現在は関東学院大学女子バスケットボール部にてプレーしている。

2022 年の高校 2 年時にデフバスケットボールを本格的に始め、デフバスケ女子日本代表のトライアウトを経て、日本代表強化指定選手となる。以降、代表チームの中心選手として活動し、2024 年 DIBF アジア太平洋デフバスケットボール選手権大会では優勝し、大会ベスト 5 に選出された。デフリンピックは双子の姉である加藤志希選手と共に今回が初出場で、チーム最年少ながら、すべての試合にスターティングメンバーとして出場し、歴史的勝利に大きく貢献した。

[横須賀市]

神奈川県スポーツ賞・デフリンピック賞

●バレーボール●

たかはま さ ゆ き
高濱 彩佑生 (22 歳)



第 25 回夏季デフリンピック競技大会東京 2025 に女子バレーボール代表として出場、金メダルを獲得した。

鎌倉市出身、神奈川県立平塚ろう学校を卒業後、現在は東海大学に在学している。

中学 1 年生からバレーボールをはじめ、競技経験を重ね、頭角を現した。

2024 年 6 月の沖縄県で開かれた世界選手権沖縄豊見城大会では、1 試合のみの出場だったが、観客と一緒に応援する方法をメンバー間で考案し、日本代表の公式 SNS で応援のコールと振り付けを投稿するなど、チームの躍進を後押しし、日本のデフバレーボール男女通じて初の金メダル獲得に貢献した。

前回の第 24 回夏季デフリンピック競技大会ブラジル 2021 では、日本選手団の新型コロナ感染による棄権で終わったため、不完全燃焼で悔しさが残ったが、2 回目の今回のデフリンピックでは、準々決勝のカナダ戦にて、ピンチサーバーとして重要なサーブを決め、日本代表に流れを作った。現在は 4 年後のデフリンピック出場に向けて活動を続けており、更なる活躍が期待される。

[鎌倉市]

神奈川県スポーツ賞・デフリンピック賞

●バレーボール●

な 中 田 み お
中 田 美 緒 (25 歳)



第 25 回夏季デフリンピック競技大会東京 2025 に女子バレーボール代表において、セッターとして全試合出場し、前々回大会以来 2 度目の金メダルを獲得した。神奈川県葉山町出身、神奈川県立平塚ろう学校、東海大学を卒業した。

生まれつき聴覚に障害があったが、小学 1 年生から中学 1 年生の途中までの約 7 年間、地域のサッカークラブに所属し、その後、家族がバレーボールをしていたこともあり、平塚ろう学校のバレーボール部に入部し競技を始めた。

2016 年 15 歳で初めて日本代表に選出され、世界選手権でベストサーバー賞を受賞した。翌年の第 23 回夏季デフリンピック競技大会サムスン 2017 では、チーム最年少ながら 17 年ぶりとなる金メダル獲得に大きく貢献した。東海大学進学後はバレーボール部に所属し、2021 年、2022 年の秩父宮妃賜杯全日本バレーボール大学女子選手権大会で連覇を果たした。

2 度目の出場となった 2024 年 6 月の世界選手権沖縄豊見城大会では、日本のデフバレーボール男女通じて初の金メダル獲得に貢献した。国内外で高い評価を受けており、デフバレーボール界を代表する選手として今後のさらなる活躍が期待されている。

[横浜市]

神奈川県スポーツ賞・デフリンピック賞

●バレーボール●

ひらおか さ ゆ り
平岡 早百合 (27 歳)



※写真中央

第 25 回夏季デフリンピック競技大会東京 2025 に女子バレーボール代表として出場、金メダルを獲得した。埼玉県出身で、現在は神奈川県川崎市に在住している。

バレーボールは、小学 3 年生の時に姉の影響で始め、高校 2 年生からデフバレーボールに取り組み始めた。力強いスパイクを武器にアタッカーとして活躍し、2016 年 17 歳で日本代表に選ばれて以来、チームの主力として活躍を続けている。

2017 年の第 23 回夏季デフリンピック競技大会サムスン 2017 では、高校生ながら金メダル獲得に大きく貢献した。東京 2025 大会では副キャプテンとしてチームを牽引し、2 度目の金メダル獲得に貢献した。豊かな経験と高い技術でチームを支える存在であり、今後のさらなる活躍が期待されている。

[川崎市]